

隨泉寺寺報

平成 27 年 (2015 年) 1 月号 第 533 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

御正忌報恩講法要

講師 住職 自修

講題 『親鸞聖人のご生涯』

■御正忌報恩講法要 ～親鸞聖人のご恩を偲ぶ法要～

○報恩講の意義

覚如上人は「報恩講式」の中で、親鸞聖人への報恩の心を三つにまとめられています。

- 一つには、親鸞聖人が生涯をかけて、お念仏のみ教えをお示し下さったこと。この私が正しく、間違いなく救われる道はお念仏しかないことを、論理的に示して下さいとです。
- 二つ目には、親鸞聖人はただみ教えを示すだけではなく、私達一人ひとりがお念仏のみ教えにより、生老病死の不安や苦しみを乗り越えて、真実の世界へと生まれさせていただく身の上を悦ぶ生活を送ることを願われたことです。
- そして三つ目は、この南無阿弥陀仏の願いは、生きとし生きるすべてのいのちが等しく救われることであり、お念仏のみ教えをいただいた私達が、「自分の喜びを、自分の家族や縁ある人びとに分ち合い、教え伝えてゆく」ことを願われたことでもあります。この三つの心を、報恩の心としてお示し頂いています。

1月の法座予定

- 1月 6日 …… 本部役員会
- 1月 11日 …… 掃除 望ヶ丘
- 1月 15日 朝席午前10時より …… 御正忌報恩講法要 おとき
- 1月 15日 昼席午後1時より …… 御正忌報恩講法要 引き続き新年互礼会
- 2月 2日 午後5時より …… 門信徒会本部役員会



新年あけましておめでとうございます。

昨年門信徒の皆様方におかれましてはどのような年になったでしょうか。昨年は私におきましては、とても有難いご縁をいただいた年でありました。ご報告が遅れましたが、昨年11月7日に第二子であります次男が誕生いたしました。昨年のこの時期にはまさか自分に二人目の子供が生まれているなんて事は想像もしていないことでありましたので、この度新年を迎えるにあたり昨年を振り返ってみて、自分が想像もしていなかった一年であったと深く感じました。

新しく家族となってくれた次男は「諒誓(りょうせい)」と名付けました。「諒」という字はまこと、偽りが無い、間違いが無い、というような意味があるそうです。確かであり、間違いのない阿弥陀様の誓願をいただいて生きてもらいたいという願いを込めて若坊守と二人で相談して名付けました。



本年は新しく家族が増えてどんな年になるのかワクワクしております。また法座の時にはより一層騒がしくなるのではないかと心配もしておりますが、家族そろって今年も法座に参加させていただき、門信徒の皆様とご一緒にご聴聞をさせていただき、阿弥陀様、門信徒の皆様にお育ていただきたいと思っております。どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。

若院 積智哉

☆ インド紀行(6) 若院

3月2日は朝からバスで移動して昼過ぎにラジギールという町に行きました。ここは霊鷲山という山があります。この地は私たち浄土真宗では最も大事にしている經典である『仏説無寿経』が説法された地であります。霊鷲山の麓までバスで移動して徒歩で30分程登山をしてお釈迦様が説法されたと思われる場所まで移動します。霊鷲山といわれる所以は鷲の形をした岩が存在している事から山の名前となったみたいです。

お釈迦様が説法された場所には沢山の参拝者がおられました。順番を待ってその地で読経をさせていただきました。夕方であったため、丁度太陽が西に沈んでゆく夕日を眺めながらのお勤めでありましたが、この先にあるお浄土に思いを馳せながらのお勤めをさせていただき、何とも言えない有難い雰囲気でお参りさせていただきました。因みに『仏説無寿経』が説かれた時には一万二千人の優れた弟子が説法を聞いていたとありますがとても一万二千人がはいれるような場所ではなかったように感じました。添乗員の話によると、この場所は声がとても反響する場所であるため、この山全体にお釈迦様の声が響きわたったということを知られました。

この場所にはお釈迦様がここで説法されたと思われる場所に仏足(お釈迦様の足を象った法輪)が書かれてありました。ここからの眺めはお釈迦様がいた当時とほとんど眺めが変わっていない、と添乗員かから聞きしそこに座らせていただきました。180度見える景色は森林です。お釈迦様も見えていただろうと思われる山の上から見下ろす景色を見て、とても有り難い気持ちになりました。

浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著 「あけぼのすぎ」

一 浄土真宗一口法話 一1月

世間に抱く関心は必ず自己中心の善悪による関心である」

(信国淳)

仏様の教えを学んでむずかしいと思いますことの一つは、この世のことと この世を超えたことの調和です。一には、この世のことは仏教には関係なく、自分の力や、神様にお願いして解決すると考える方が多いように見えます。しかし、それでは、仏教は歳取ってからのお慰めにすぎません。反対に、何でも、佛教によって解決しようとする、宗教同士の対立になつたり、佛様を利用して自分だけの思いを押しつける恐れも生じます。

ちょうどよいところは、この二つの境目にあるのではないのでしょうか。常に、阿弥陀如来さまに支えられ、喚びかけられながら、自分の考えや行いを顧み、お任せするところはお任せして、できることを精一杯尽くしていくことです。

南無阿弥陀仏は凡夫の作るこの世の中に来て、はたらいていてくださいます。

お念仏申して、共に生きる道を育てていきましょう。



年の初めに言い訳がましく 『老苦』

老いということはどういうことなのかと愕然としています。年末でいろいろと忙しいことがあり、仕事に追われていました。報恩講のお参りも毎日あって、その上 お葬式も続いていました。

毎月2日は本部役員会です。この日までに必ず寺報は出来上がってなければなりません。なぜならば、本部役員の方が各地区に持って返り配ってくださるからです。ようやく出来上がり、印刷をして本部役員の方に配った時です。ひとりの役員の方が突然声を出されました。『御院家さん、これはおかしいで、裏も表も一緒じゃ』えええっつ？びっくりしました。表も裏も同じ原稿を印刷しているではありませんか？ 15分ほど待ってもらって印刷しなおしました。

次の日のことです。2日に本部役員の方に来年の年忌 知を持って返っていただきました。1周忌とか7回忌とかの案内です。電話がかかってきました。沢山の山の人から。「御院家さん、知をもらったんですが、1周忌は去年勤めました。今年は3回忌では？」「7回忌はもう今年勤めましたよ。毎年するんですか？」等々。間違えて印刷したのです。去年と同じ案内を出していました。申し訳ありませんでした。



これもまた刷り替えて配ってもらいました。少しボケてきたのでは？ 落ち込んでいたら、その次の日、追い討ちをかけるように坊守が言いました。「おとうさん、牛乳は冷蔵庫に入れてください。食器棚に入れるものではありません。」と。まるで鬼の首を取ったかのように、笑いながら。牛乳を食器棚の中に入れていたようです。思い出しました。確かにその朝牛乳を飲みました。しかし冷たかったので、コップに入れながら ひらめきました。『暖めて飲もう』と。食器棚の隣に電子レンジがあります。レンジに入れる時にちょっと食器棚に牛乳を置きました。温まるのを待っているうちに、置いたことを忘れてしまいました。二つのことが出来なくなったのです。ひとつのことをしていたら、もうひとつのことは忘れていました。



何年か前に言われたことがあります。『このごろ、うちのおばあちゃん おかしいです。お仏壇の中に洗濯物を入れたり、台所に仏さんの花瓶を置いたり、玄関に洗剤を置いたりして』と言われた事がありました。そりゃおかしいですよ。仏壇に洗濯物があったら。しかし判ったんです。ようやく。自分がその身になって。におかしくなったのではありません。二つのことが出来なくなったんです。おそらくそのおばあちゃんは、洗濯物を取り込んで仏壇の前を りかかった時、お花が枯れているのに気がついたんです。それでお花を変えようとして、ちょっと仏壇のところに洗濯物を置いたんです。それで華をかえようとしたら食器が汚れていたの、洗剤で洗おうとした時、誰かが来られたんです。それで洗剤を持ったまま玄関に出て、はなしていたら、そのまま忘れたのです。二つのことが出来なくなったんです。



むかし、足利義山和上という人がおられました。賢い勸学さんです。その先生がお年を召されてだんだん解らなくなられました。毎朝のお勤めが長くなったり、短くなったりするのです。同じところを何回も読まれたり、途中が飛んだりするのです。奥様が『先生でも少しお年を召されたのですね、間違えられています』といわれたら、先生が『人間は間違えるものです。しかし間違えられない仏様がおられます』とお念仏を申されたという話を聞いたことがあります。そうです、人間は間違えるものです。だから阿弥陀様がおられるのです。こっちは間違えても阿弥陀様は間違いはありません。そのための御本願です。なんと有り難いではありませんか。

お釈迦様は「人生は苦なり」と仰り、その根源は、「生老病死」にあると示されました。けれどお釈迦様は、「生老病死」そのものが苦であるとは言っておられません。「老」は自然な姿そのものです。一つひとつがつぎへのステップです。ところがこの私が、「老」をありのままに受け容れられないから苦が生じるのです。とはいえ、煩惱具足の凡夫である私は、とかく愚痴に明け暮れます。そんな私でも、老いること、病むこと、そして死 することに少しでも意味を見出すことができると願います。

